

第9回熊本市歴史まちづくり協議会 議事録

【日時】令和6年(2024年)3月22日(金) 午後2時~午後4時

【場所】市民会館シアーズホーム夢ホール2階 第5・第6会議室

【出席者】8名出席 ※以下、敬称略

委員 猪飼 隆明(会長)、伊東 龍一、大森 洋子、鄭 一止、小林 寛子
舟津 紀明、上村 元三、吉村 圭四郎

【議題】

- 1 歴まち計画の進捗管理・評価制度について(報告・振り返り)
- 2 令和5年度の進捗管理・評価について(報告・意見聴取)
- 3 令和6年度の間接評価及び主な取組について(報告・意見聴取(任意))

【概要】

事務局で説明後、意見聴取を行った。委員から出された意見は以下の通り。

1. 空地等活用事業について

- ・一町一寺ということでお寺を中心にした町であり、お寺も巻き込んで実施したほうがより盛り上がると思う。
- ・一町一寺の空地等活用事業は最終的に何を目指してるのか、歴史的風致にこの空地等活用事業がどのように結びついて最終目標がどうなってるのかを明らかにした方が良い。

2. 町屋等活用促進事業について

- ・歴史的風致維持向上の観点で、町屋を利活用することを考えるならば、やはり町屋が本来持っているオリジナルの部分等が分かる町屋カルテ等を作成し、利活用する際に、残す部分と改修する部分の判断をした方が良い。
- ・町屋カルテを通じて、所有者が自身の町屋のことを知るきっかけになることが重要であり、家の自慢や知っていることを都度書き込んでいくようなものがあればすぐにでも出来る。
- ・マッチングにあたって、不動産の専門家を取り入れていくことも一案だと思う。

3. 観光周遊促進事業について

- ・せっかく通訳案内士を養成しているので、この通訳案内士が地域の活動や、その保全を英語で解説できるようであれば、海外から来る観光消費額の高い方々を案内して、色々な事を知っていただくいいチャンスになる。
- ・歴史的にも価値のあるものが保存されて、それが使われて、外に向かって発信されてこそ、価値が人に伝わり、お金を生む源になる。そのお金をこれから先につなげたいと思う地域の宝の保全に活用するために、各種連携が出来ることが望ましい。

4. 文化財の保存及び活用に関する事項

- ・熊本地震後、古町の善教寺は移転し貴重なものが無くなった。文化財として認定出来るか分からないが、市としても状況を把握された方がいい。
- ・河尻神宮も貴重なものがあるが、市では神宮自体の調査が行われておらず、市でどういうことをやっていたのか記録しないと消えていってしまう。古文書などの総合的な資料を残していく対策が必要となる。
- ・文化財保存活用地域計画をぜひとも策定していただきたいと思っている。よりソフト的な活動への支援をしっかりともらいたい。